



2021年6月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

2021年2月9日

上場会社名 株式会社アイキューブドシステムズ 上場取引所 東
 コード番号 4495 URL <https://www.i3-systems.com/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 CEO (氏名) 佐々木 勉
 問合せ先責任者 (役職名) 経理財務部部長 (氏名) 小野 崇 (TEL) 092(552)4358
 四半期報告書提出予定日 2021年2月9日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 有

(百万円未満切捨て)

1. 2021年6月期第2四半期の業績 (2020年7月1日~2020年12月31日)

(1) 経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年6月期第2四半期	936	—	257	—	247	—	171	—
2020年6月期第2四半期	—	—	—	—	—	—	—	—
	1株当たり 四半期純利益		潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益					
	円	銭	円	銭				
2021年6月期第2四半期	33	09	32	24				
2020年6月期第2四半期	—	—	—	—				

- (注) 1. 当社は、2020年6月期第2四半期については四半期財務諸表を作成していないため、2020年6月期第2四半期の数値及び2021年6月期第2四半期の対前年同四半期増減率については記載しておりません。
 2. 2021年6月期第2四半期の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、当社株式が2020年7月15日に東京証券取引所マザーズ市場に上場したため、新規上場日から当第2四半期会計期間の末日までの平均株価を期中平均株価とみなして算定しております。

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2021年6月期第2四半期	2,178	1,425	65.5
2020年6月期	1,336	704	52.7

(参考) 自己資本 2021年6月期第2四半期 1,425百万円 2020年6月期 704百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円	銭	円	銭	円
2020年6月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2021年6月期	—	0.00	—	—	—
2021年6月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2021年6月期の業績予想 (2020年7月1日~2021年6月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円
通期	2,004	22.1	450	9.3	430	7.2	281	△11.4	54.42

(注) 1. 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

2. 1株当たり当期純利益は、2020年7月14日付で払込が完了した公募増資分(150,000株)と2020年8月12日付で払込が完了したオーバーアロットメントによる株式売出しに伴う第三者割当増資分(22,500株)を考慮して算出しております。

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2021年6月期2Q	5,209,850株	2020年6月期	5,011,350株
② 期末自己株式数	2021年6月期2Q	一株	2020年6月期	一株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2021年6月期2Q	5,182,697株	2020年6月期2Q	一株

(注) 当社は、2020年6月期第2四半期については四半期財務諸表を作成していないため、2020年6月期第2四半期の期中平均株式数については記載しておりません。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	5
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書	6
(4) 四半期財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期累計期間における経済環境は、新型コロナウイルス感染症の沈静化に向けた兆しが見られた一方で、我が国を含む世界各国では感染が再拡大しており、依然として収束の目途はたっておらず、経済活動に今後も一定の制約が課されるおそれがあり、その不確実性に留意する必要があります。このような状況下において、当社が属するEMM (MDM) の市場においては、企業を中心にテレワークの導入が進み、それに伴うセキュリティ等の環境整備も進んでおり、新しい生活様式に対応する動きに牽引される形で、前事業年度に引き続きその需要は拡大を見せています。

このような市場環境の中、当社は「ITをもっと身近に」というミッションのもと、2010年から提供を開始したモバイル端末管理サービス「CLOMO MDM」及びモバイル端末向けアプリサービス「CLOMO SECURED APPs」を事業の主軸に、クラウドを利用したB to BのSaaS事業をサブスクリプションの形で提供しており、2020年12月には、2020年度のMDM市場（自社ブランド）においてシェアNo.1を達成し、2011年度からの10年連続でシェアNo.1となりました（注1）。

当第2四半期累計期間においては、CLOMO 製品をご利用いただいているお客様を対象に、CLOMOの導入事例やパートナーのソリューション、CLOMOを支える技術やサポート体制を紹介する、第4回 CLOMOユーザーミーティングを初のリモートで開催したことに加え、当社Webサイト等のWeb媒体にCLOMOの導入事例記事を積極的に掲載し、急激な環境変化に適応する手法として引き続きリモート営業や、デジタルマーケティングを推進しております。また、GIGAスクール構想（注2）による小中高等学校へのモバイル端末の導入や、PHSサービスが2021年1月末をもって終了を予定していることに伴うスマートフォンへの移行（注3）、PCのSIM対応に伴う需要に対しても、積極的に営業活動を行っております。

また、今後の市場シェア拡大に向けて、当社の競争力の一部である製品開発への投資を進め、製品価値の向上及び原価コストの低減に取り組んでおります。具体的には、製品開発とサービスの運用面においては、Azure Kubernetes Service (AKS)（注4）やXamarin（注5）といった新たな技術を活用し、製品開発やサービス運用の効率化を進めており、人材面においては、外国籍のエンジニアを積極的に採用する等、多様性の促進と優秀な人材の採用を進めております。

その結果、導入社数は2,879社（前事業年度末比18.5%増）に達しております。（なお、第1四半期報告書のとおり、当社は2020年7月より導入社数のカウント方法を変更しており、変更後の前事業年度末時点の導入社数は2,429社となっております。）

なお、新型コロナウイルス感染症の感染拡大による当社事業及び経営成績へのマイナスの影響については、感染拡大以前に見込まれた受注の一部が延期される等限定的なものに留まっており、その後企業を中心にテレワークの導入が進み、それに伴うセキュリティ等の環境整備も進んでおり、新しい生活様式への対応という動きに伴う需要の拡大といったプラスの影響があったことで、当第2四半期累計期間の経営成績や当社が目標とする経営指標（CLOMOの導入社数の増加、ライセンス継続率）への影響は極めて軽微でありました。

以上の結果、当第2四半期累計期間の経営成績は、売上高936,347千円、営業利益257,299千円、経常利益247,304千円、四半期純利益171,472千円となりました。

なお、当社の事業はライセンス販売事業のみの単一事業であるため、セグメントごとの記載を省略しておりますが、サービス別の内訳は次のとおりであります。

CLOMO MDM	売上高	830,733千円
SECURED APPs	売上高	101,783千円
その他	売上高	3,830千円

（注1）出典 デロイト トーマツ ミック経済研究所「コラボレーション／コンテンツ・モバイル管理パッケージソフトの市場展望」2011～2018年度、「ミックITリポート2020年12月号」2019年度出荷金額実績および2020年度出荷金額予測。

（注2）2019年12月に文部科学省が打ち出した、児童生徒向けに1人1台の端末や、高速通信環境を一体的に整備することで、学習活動の一層充実や主体的・対話的で深い学びの視点から授業改善の実現を目指す構想。

（注3）医療機器に与える電磁波の影響などから、従来は主にPHSが導入されていた医療機関等において、今後は一般的なスマートフォンへの移行が進むものと見込まれる。

（注4）マイクロソフト社が提供するコンテナ化技術。CLOMOシステムをコンテナベースとすることで、信頼性の向上や運用負担の軽減、運用コストの削減を進めている。

(注5) マイクロソフト社が提供するアプリケーション開発用のプラットフォーム。iOS、Android、Windowsという異なる環境で動作するCLOMOアプリケーションのソースコードを共有化することで、開発速度の向上や省力化を進めている。

(2) 財政状態に関する説明

①資産、負債及び純資産の状況

当第2四半期会計期間末における財政状態については次のとおりであります。

(資産)

総資産は2,178,338千円となり、前事業年度末に比べ841,849千円の増加となりました。これは主に現金及び預金が増加したことによるものです。

(負債)

負債は752,463千円となり、前事業年度末に比べ120,492千円の増加となりました。これは主に前受収益が84,195千円、長期前受収益が32,942千円増加したことによるものです。

(純資産)

純資産は1,425,875千円となり、前事業年度末に比べ721,356千円の増加となりました。これは主に公募増資及び第三者割当増資の実施、新株予約権の行使に伴い資本金及び資本剰余金がそれぞれ274,942千円増加したことによるものです。この結果、自己資本比率は65.5%（前事業年度末は52.7%）となりました。

②キャッシュ・フローの状況

当第2四半期累計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は1,770,175千円となり、前事業年度末に比べ839,540千円の増加となりました。

当第2四半期累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は382,647千円となりました。これは主に、税引前四半期純利益247,304千円、減価償却費81,890千円、前受収益の増加84,195千円によるものです。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は29,574千円となりました。これは主に、無形固定資産の取得による支出26,790千円によるものです。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果得られた資金は486,468千円となりました。これは主に、株式の発行による収入500,144千円によるものです。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

2021年6月期の業績予想につきましては、2020年7月31日公表の業績予想から変更はありません。

なお、新型コロナウイルス感染症による事業活動への影響および業績予想への影響につきましては、国内での緊急事態宣言の再発令等に伴う今後の経済環境の不確実性に留意する必要があるものの、当社の収益構造がストック収益を主とするクラウドを利用したB to BのSaaS事業をサブスクリプションの形で提供していることに加え、テレワークへの移行及びセキュリティ環境整備等、新しい生活様式への対応を進める動きに牽引される需要の拡大も根強いことから、現時点では軽微であると考えております。他の要因を含め公表すべき事実が発生した場合には速やかに開示いたします。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2020年6月30日)	当第2四半期会計期間 (2020年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	930,634	1,770,175
売掛金	114,723	139,428
その他	46,140	75,689
流動資産合計	1,091,498	1,985,293
固定資産		
有形固定資産	38,236	37,012
無形固定資産		
ソフトウェア	113,503	56,460
ソフトウェア仮勘定	33,562	37,984
無形固定資産合計	147,066	94,444
投資その他の資産	59,688	61,588
固定資産合計	244,990	193,045
資産合計	1,336,489	2,178,338
負債の部		
流動負債		
買掛金	45,075	20,605
未払法人税等	21,150	83,879
前受収益	358,722	442,917
賞与引当金	45,487	42,586
その他	148,469	116,466
流動負債合計	618,904	706,455
固定負債		
長期前受収益	13,066	46,008
固定負債合計	13,066	46,008
負債合計	631,970	752,463
純資産の部		
株主資本		
資本金	100,000	374,942
資本剰余金	—	274,942
利益剰余金	604,518	775,991
株主資本合計	704,518	1,425,875
純資産合計	704,518	1,425,875
負債純資産合計	1,336,489	2,178,338

(2) 四半期損益計算書

第2四半期累計期間

(単位：千円)

	当第2四半期累計期間 (自 2020年7月1日 至 2020年12月31日)
売上高	936,347
売上原価	227,886
売上総利益	708,460
販売費及び一般管理費	451,161
営業利益	257,299
営業外収益	
受取利息	38
その他	557
営業外収益合計	595
営業外費用	
上場関連費用	10,469
その他	121
営業外費用合計	10,591
経常利益	247,304
税引前四半期純利益	247,304
法人税等	75,831
四半期純利益	171,472

(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)	
当第2四半期累計期間 (自 2020年7月1日 至 2020年12月31日)	
営業活動によるキャッシュ・フロー	
税引前四半期純利益	247,304
減価償却費	81,890
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△2,900
受取利息	△38
上場関連費用	10,469
売上債権の増減額 (△は増加)	△24,705
仕入債務の増減額 (△は減少)	△24,470
前受収益の増減額 (△は減少)	84,195
長期前受収益の増減額 (△は減少)	32,942
その他	△927
小計	403,759
利息の受取額	38
法人税等の支払額	△21,150
営業活動によるキャッシュ・フロー	382,647
投資活動によるキャッシュ・フロー	
無形固定資産の取得による支出	△26,790
その他	△2,783
投資活動によるキャッシュ・フロー	△29,574
財務活動によるキャッシュ・フロー	
株式の発行による収入	500,144
上場関連費用による支出	△13,675
財務活動によるキャッシュ・フロー	486,468
現金及び現金同等物に係る換算差額	-
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	839,540
現金及び現金同等物の期首残高	930,634
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,770,175

(4) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、2020年7月15日に東京証券取引所マザーズ市場に上場いたしました。上場にあたり、2020年7月14日を払込期日とする有償一般募集（ブックビルディング方式による募集）による新株式の発行150,000株により、資本金及び資本準備金がそれぞれ215,280千円増加しております。

また、2020年8月12日を払込期日とする有償第三者割当（オーバーアロットメントによる売出しに関連した第三者割当増資）による新株式の発行22,500株により、資本金及び資本準備金がそれぞれ32,292千円増加しております。

並びに、2020年11月12日を払込完了日とする譲渡制限付株式報酬制度による新株式の発行6,000株により、資本金及び資本準備金がそれぞれ24,870千円増加しております。

さらに、2020年7月1日から2020年12月31日までの間に、新株予約権の行使により、発行済株式総数が20,000株、資本金及び資本準備金がそれぞれ2,500千円増加しております。

これらの結果、当第2四半期会計期間末において、資本金が374,942千円、資本剰余金が274,942千円となっております。

(四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

税金費用については、当第1四半期会計期間を含む事業年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。